

平成21年度第2回南部地域政策総合会議 概要

- 1 開催日時 平成22年3月5日(金) 14:00～16:00
- 2 会場 南部総合県民局 美波庁舎 大会議室
- 3 出席者
  - (1) 委員 20名のうち15名出席
    - ① 地域住民代表委員 19名のうち14名出席  
井元委員、上杉委員、加藤委員、門田委員、小林委員、柳野委員、高橋委員  
橋本委員、平井委員、林委員、舛委員、町田委員、松田委員、山本委員
    - ② 県委員 1名  
上野南部総合県民局長
  - (2) 管内市町長 5名  
岩浅阿南市長、坂口那賀町長、大神牟岐町長、影治美波町長、五軒家海陽町長
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 知事あいさつ
  - (3) 議事  
「徳島県南部圏域振興計画」の推進について
    - ①「徳島県南部圏域振興計画」の修正について
    - ②「平成22年度 南部圏域課題解決プランの実施計画」(案)について
  - (4) 閉会
- 5 配付資料
  - 資料 1 「徳島県南部圏域振興計画」修正(案)
  - 資料 2 平成22年度南部圏域課題解決プラン実施計画(案)
  - 資料 3 「平成22年度南部圏域課題解決プラン実施計画(案)」リーフレット

(参考資料)

徳島県南部圏域振興計画  
南部圏域の現状

平成21年度第1回南部地域政策総合会議 概要

(当日配付資料)

「最近の治安情勢を踏まえた防犯、交通安全対策について」

「だれも知らない四国の右下」

「南阿波 地元めし」

「南阿波 見どころ」

「地下足袋王子杯 TSURUGI Trail Running Race in NAKA 2010」

会議発言内容

(木岡副局長)

ただ今から平成21年度第2回南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、地域住民代表されまして委員19名のうち14名の方が出席。それと地元市町長の方のご出席も頂いております。

それでは先ず、飯泉知事からご挨拶を申し上げます。

(飯泉知事)

あいさつ

(木岡副局長)

徳島県南部地域政策総合会議設置要綱に基づき、今後の議事進行は上野南部総合県民局長が行います。

(上野南部総合県民局長)

南部総合県民局長の上野でございます、よろしくお願いいたします。

本日は先ず徳島県の南部圏域振興計画の修正及び平成22年度の実施計画案につきましてご説明させていただきます。後程、南部圏域の振興に向けた委員の皆様方からの忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の議事内容につきましては、委員名を除き県のホームページで後日公開することを予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題の徳島県の南部圏域振興計画の修正につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(森政策調査員)

(資料3リーフレットにより説明)

(上野南部総合県民局長)

先ずは、地域住民代表の皆様方にご意見をお伺い出来たらと思っています。どなた様からでも結構でございます。ご意見、ご質問等ございましたら、お伺いしたいと思います。ございませんか。それでは、順番に〇〇委員さん何かございますか。

(〇〇委員)

下から五番目の「産官学協働型環境保全活動推進事業」についてお伺いと、要望を申し上げたいと思います。私の現場、徳島大学、阿南高専とで LED を中心とした技術開発、商品開発を含めた提携をしていますが、やりたいことは幾らでも有るんですが、こういう事業はお金がかかり現実にはなかなか難しい。

ひとつは、徳島大学と LED の紫外線を利用した水環境、特に殺菌効果、どれだけ効果があるか、と言う研究をやっています。

もう一つは、阿南高専とで、世界にない面白い水族館を作らんかということで、自然漁とロボットのコラボというような事で、現実にはどのような物ができるかということで、取り組んでいます。

有る程度成果が出た場合には、次のステップとして、それをどういう風に商品化していくかと言うようなことが必ず起こってくるわけで、そういうところまで踏み込んだ形にもし出てきましたら、県の方のご支援是非ともお願いしたい。

(〇〇委員)

この5番のきりり輝く人づくり実践のところで、私、最近、那賀町でボランティア活動で、環境整備に関わっています。一昨年来から始めて15名前後の人でやっていますが、町道、県道にかかわらず、新しく出来た道で、削っていたところを吹き付けをしています。これがハギ系統の木を吹き付けしたところが、随分あり、これが2、3年しますと3cmくらいの木に成長します。斜面にこれがものすごく繁殖しているため、草刈り機が全く役に立たず、ノコギリで切っていかなだめな程成長します。そして生えている種がハギ系統で、それこそ鈴なり状態になり、落ちた種がどんどん広がり個人の所へも沢山繁殖しています。ですから公共事業にそういった外来種の草とか木とかを吹き付けないようにしてほしい。それと今、特にセイタカアワダチソウが今、山口のところの楠坂の手前で繁殖しており、那賀町の方にも入って来ております。特にこれは花粉症とかありますし、さらに繁殖力が凄く公共用地を中心に生えてくると思うんです。こういった外来種のものに対する配慮を行政あげて取り組んでいかなければ、大変なことになりますので、公共事業では使わないようにして頂きたいと思っております。この点駆除も含めて、よろしくお願い致します。出来ましたらボランティアに最低の費用を補助していただけたら有難いと思っております。

(柳本県土整備部長)

ただ今、〇〇委員のご提議について、従来は法面吹付には外来種の種を吹き付けていましたが、平成12年度ぐらいからその地で育った種を吹き付けるように運用を変えておりますが、それがまだ十分で無いんだろうと思います。もう一度、建設管理課にこういった指摘があったことを申しておきますのでご理解をよろしくお願い致します。

(〇〇委員)

前回の会議で、ウェブのアクセス数について話があったと思うのですが、その当時から今までで、どれぐらいのアクセス数の変化があったか分かってれば教えていただきたい。

それは、先程の4番の魅力満載というところのブログ形式で色んな発信、支援するという報告を頂いたんですが、私が別の活動をしているところで、「寒茶」のブログを書いて売り上げを伸ばした話があり、多

少寒茶ってのは高い値段設定なんだけど、売り上げを伸ばしたっていう話を伺っています。ウェブを使っ  
ていかに魅力を発信するかっていうところが非常に大事。ブログの書き方にはコツがあり、その辺をうまく  
取り入れながら、観光、食品、色んな分野で使ってみてはどうかかなと思ってます。

どれくらいのアクセスが増えたのかを教えてくださいたいのと、今後どういうブログを使って、物事を発  
信するのか、分かっていたら教えてくださいたい。

(武田企画振興部長)

企画振興部長の武田でございます、よろしくお願いいたします。

「みなみ@徳島」のアクセス数につきましては、実は当初目標が3万ビューで、年間3万ビューでスタ  
ートしましたが、その後、アクセス数が随分増え、18年は24万、19年は24万、20年は40万ビューとず  
っと増加をし、それに併せて目標値も3万から35万、そして21年度から50万ビューと上方修正をしてお  
りました。今年度は、現在、35万位になり、昨年より少し減っている状況になっております。

委員から内容の魅力をもっと高めるべきとの御提言を頂きましたが、来年度は「南部地域の観光レ  
ジャー情報発信事業」により、「みなみ@」も含め県のホームページ等を魅力のあるものに変えるような取り  
組みを予定しております。

(〇〇委員)

パンフレット「だれも知らない四国の右下」ですが、改めてこういう場所があると発見できる冊子で、私  
も行ってみようかなっていう気になりました。やはり交流人口を増やす、とにかく来ていただいて、こんな  
もんがあるということを知らせていくことは非常に大事なツールと思います。是非、これに限らず、改めて  
行って見たくなるような資料を作って頂きたいと思います。私、毎日ウェルかめを見ているんですけど、  
ウェルかめに限らず徳島の魅力っていっぱいあると思います。是非、この美波町も十分魅力的な町で、  
県南地域に色んな魅力的な場所はいっぱいあると思います。私たちのまだ知らない部分もさらに掘り起  
こしていただきたいと思いました。

(〇〇委員)

パンフレット「南阿波地元めし」と「南阿波見どころ」を今日、初めて見させていただき、他所へ行つた  
ら先ず、食べ物屋さんです。私も空き家とか人のお世話をしてたんですけど、これは食べ物屋とこの  
頃思いました。私たち地元のアドバイス入れたり、町とかそれからみんなの力とっているんです。仕入  
れがし易くなるようなそのシステムがうまく進むように。是非、日和佐町の場所が良いところを、町の方  
にも協力していただいて、来年は2店新しくここに載るように是非持って行きたいなと思っています。

それから、津波の第二波、第三波どころか、いよいよ不況が来たなっというのがこの頃よく分かるんです。  
これは油断できない、かなり引き締めていかないといけないと思っています。

雇用では、椎茸の工場が何軒か出来、年配の人の雇用、行くところが出来ているんです。

それで私は都会の人に生もの、魚をそのまま送っても生ゴミが出るので、前から真空パックしたり、内  
臓を取って送るとかしてるんです。金時芋を一箱送っても多い、椎茸をその生のまま一箱送ったら大変  
です。それで、生椎茸は中国へ送って加工はできない。2℃温度を上げたら山のように椎茸が出来るっ  
ていう、それで多分、くずの椎茸とか出来るはずで、それを無駄なく加工できるシステムを是非作って頂  
いて、更なる雇用をもって来ていただきたい。干し椎茸の話をしているんです。自分で頂くものですか  
ら、食べきれないので干し椎茸にするんです。大阪とか都会の人達って、この頃エコとかで、一夜干しと  
かその作ることは好きなんですよ。それで、竹かごを入れ自分で考えた干し椎茸の作り方を書いて入  
れて送ったげると、喜んでいただける。以前には鳴門金時を手作りのブリキのオーブンを付け、鳴門  
金時も少し入れて送ったりしてたんです。そういう異業種交流を、ここでもやって下さってるコンサルタ  
ントのアドバイスの中にそういう違うものをくっつけてアドバイスをさせていただきたいと思っています。それ  
で、先程の加工を進めて頂き、さらなる雇用、産業の売り出しを是非していただきたいと思います。

(〇〇委員)

資料1の「ブランド化等の推進」と、「杉皮を利用した培地でのユリ栽培は現在行っていないため、その  
部分を削除した」とあるんですが、ユリの栽培は南部では行っておりませんが、徳島市内で行ってら  
っております。これは3年ぐらいやってかなり成果が出て、今年ぐらいから本格的に作って見ようと思っ  
ています。それで、南部の方では、新野でイチゴの栽培をやってもらっていますが、これもまずまず成果が  
出ています。イチゴについては4年ぐらい前から阿波市でハウス棟、杉皮の培地に変えてもらい  
やっております、それも大分成果が出ており、今年から、事業化していきたいと思っています。

今、林業では、提案型集約型施業というのが非常に有効で、こちらの方に進んでいっています。この  
事業のパネルディスカッションについて森林組合連合会の月刊誌の中に載っており、そこで高知県の森  
林組合の組合長さんが、人材は重要で、この人材を作ることと、機械、路網の三つは別々ではだめで、

一緒にやらなければいけないということ。また、別の組合員は、組合員あつての組織なので、先ず組合員への所得還元を考えるとということを言っております。また、コメンテーターの人は、提案型集約型施業のモデルとなった森林組合のやり方を広めれば良いと言うことにはいかない、それぞれ実情は違うわけで、その地域にあわせたものを作っていくことが、大事だといっております。徳島県が林業飛躍プロジェクトとしてやっているわけで、徳島県なりの地域の実情にあったやり方をやっていると思います。重要なのは、これをどうやって続けていくかという事です。また、人を育てると言うことは、ずっと人を雇い育てていくことを続けていくことが、重要と思います。そのためには、やっぱり人、機械化、路網。この三つを一緒にして進めていくと考えています。一番大切なのは森林組合が、実際にやる努力だと思うんです。

那賀町の木沢や木頭は非常に山が急峻なところがあり、作業道の元になる林道がまだ少ないように思われます。林道を開設するには非常にお金がかかるわけで、簡単にいくとは思われません。この資料の計画の中にも林道のことは何も載ってないようです。林道工事も今何箇所かやっており、とにかくずっと続けていくことを行政の方をお願いしたい。森林組合としては、人を雇い育て、努力を続けて組合員の所得に繋げ、それによってまた事業が次に繋がっていくというふうにしたいと思っています。

この22年度のプランの実実施計画の案に「搬出可能な森林を南部フォレストバンクとして登録し、森林整備の推進と木材の安定供給につなげる『南部フォレストバンク事業』を実施」とあるんですが、森林組合としても、山の調査事業をしてそれをまとめて事業に繋げて行くということを今、やろうとその担当職員を置いてやっていこうと思っています。この組合の考えと、この事業とマッチングすることがあると思いますので、森林組合の方の意見も聞いてもらい、こちらへ情報提供してもらいながら、森林整備に努めて行きたいと思いますので連携しながらやっていければと思います。

(園農林水産部副部長)

南部フォレストバンク事業は、南部圏域の重点施策として人材を確保することですが、林道の整備が遅れているとかいうことですが、計画目標としては、ヘクタール当たり19メートルに整備目標を設定しており、今は12.10メートル少々でこれからと言うことでございます。それから、林道から間伐材を集めるために路網を延ばしていく。それから機械化、間伐システムは導入が進んでいってますけれど、それは非常に必要性を認め、やらせて頂いております。

南部フォレストバンク事業は、施業を進めていくためには、ある程度それが推進できるような森林をまとめていく必要があり、森林所有者が地元においでない方、それから整備が出来やすいのに、出来てないような森林をお持ちの方にお話を持って行き、それを登録し、登録した分について、整備を進めてくという考え方で進めております。その推進母体として経営サポートセンターを設立していくということでございます。

(〇〇委員)

去年の12月に駐在所跡地を一年間無料でお借りし、お遍路さんの接待、高齢者の接待を主にしております。会員も60人出来、一週間、5日ということで頑張っております。

それで、一步会の新開さんは6年間ね、お遍路さんの道を美化活動で表彰されましたが、その新開さんに見習って私もしていくというのは、まだ不法投棄があつたり、道が汚いのです。それから、トンネルの中も暗いし、国道から山に上がる場所をもっと整備していただきたい。

それから、接待所があちこちに来ているんですが、トイレが一つもないので、トイレに一番困ります。簡易トイレも全部には付けられないにしてもどこかにして頂きたい。

看板については、お遍路さんの看板ももっとちゃんとしていただきたいけれども、個人の看板が汚くて、景観を損ねています。個人の看板をもっとどうにかしていただきたい。

それでこの前、四国四県の県議会が四国八十八箇所を世界遺産にも繋げようって言うふうなことも兼ねてお参りになったと思うんです。それがこの27日ですか、最後結団式って言うのが、88番の大窪寺であるって言うことをこの間聞きました。世界遺産なるか、ならないかにかかわらず、私たちももっと綺麗にしていきたい。それから四国四県では、愛媛が綺麗というので、一度見学に行きたいと話したことです。その四国四県の文化遺産に繋げる会議が3月16日にあると聞きましたが、こういった情報も私たちの方にも流していただきたい。お遍路さんに関してはこれだけです。

次に、徳島県のレジ袋有料化について、私自身も15、6回講演にも行き、神山や勝浦の方からも日和佐にも見学に来てくれたり、ゴミゼロ推進室と連携取りながらやっております。全国でもだいぶできつつありますが、レジ袋がいかにCO2の削減につながるかっていうことを、もっと知っていただき、行政の方も、取り組んで頂きたいと思います。海部郡で削減したレジ袋の枚数をCO2に計算したら、毎日一日に50本ずつ木を植えていくのと同じなんです。それだけ削減ができていくということで、徳島県内でももっと有料化が進められるようお願いいたします。

(小川総局長)

政策企画総局長をしております小川です。

四国八十八箇所の世界遺産に向け、3月16日高松におきまして、四国四県行政、地元の市町村長、大学関係、またボランティアの方々、こういった方々にお集まりを頂き、総勢70、80人位で、四国四県で色んな分野の方々と協働して、世界遺産登録に向けての活動を動き出す推進組織というものを立ち上げる予定にしております。その中には、一步会の方々もご参加いただけるかなと考えております。

ただ今、情報を流して欲しいというお話もございましたので、また私の方から必要に応じ情報を流させていただきますので、また何なりとご照会いただければ有難いと考えております。

(〇〇委員)

資料で2点お聞きしたいことがあります。「木材認証への取組により違法に伐採・流通している木材の利用を防止し・・・」というのがありますが、違法に伐採とはどういうことでしょうか。

もうひとつは、活動の指標ということで、「複層林誘導面積」の複層林、国とか県レベルの定義をお伺いしたいんです。

(園農林水産部副部長)

この木材認証への取組みとは本県の場合、徳島県木材認証制度というのがございまして、合法というのは「森林法に沿って適正に切り出された木材」のことを指して、徳島県木材認証機構、これは徳島県森林組合連合会、徳島県木材協同組合連合会と学識経験者で構成されていますが、そこで認証していただいて使っていただくということです。ですから、「違法で」というのは森林法に対してということです。

複層林誘導面積の目標設定は、22年度は180haです。複層林は杉ですと46年生から75年生の杉の中で抜き伐りをし、その後で植樹する。それを繰り返し、100年、50年、25年の杉があるというような形で森林を継続的に活用していくことが複層林ということです。

(〇〇委員)

那賀町でバイオスタウン事業が始まり、地域の活性化ということで町長さんもがんばっていると思うんですが、物事にはプラスとマイナスがあると思うんです。木材を安定的に供給するところがものすごく難しいような感じがします。沢山出るときはいいんですが、出たら出過ぎで値崩れを起こす。山を持っている方は単価が低かったら厳しい。

それと、森林組合長さんが言われたように、人材の育成はものすごく難しいけれど、これは避けて通れないと思います。個人でも山を維持していくには、とにかく人材を育成していくのが大変でとても難しい。個人で山を守って行く場合、後継者で何か良い方法がないのでしょうか。

それと、たくさん高性能機械が入ってきておりますが、小さいとやりづらから段々と幅員を広げていくわけですが、四つ足峠に上がっていく所では傾斜が急峻で、私のところでも、研修とか視察を受け入れていますが、本当に急峻ということにびっくりしています。そんな急峻なところに機械を入れる場合に幅員というのは避けて通れないことです。公共事業みたいに幅員を広げますと、かなり山を維持するには厳しい状況になってきますので、あまり大きい機械はどうなのかなと感じました。そういう幅員が狭いところでは小旋回の機械ができれば開発していただければと思っています。

それから、林道脇の雑草とかは自分たちで刈らないと費用がなかなか出てこない状態です。それから個人で、缶とかのゴミを年間2トトラック2、3台分を集めています。やはり山だけでなく、その地域全体が美しくならなかったら、空気が淀んでいるところではうまいこといかない。良い空気が流れるように私たちも努力をしなければいけないと思いながら活動をさせてもらっています。やはりこういう時代ですので、地域からがんばって行こうと思います。自然に入れば自然が先生だと私は思っていますので、自然からいろいろ学びながら、我を通すことなく、自然と共に生きていければいいなとそんな風に考えています。

(〇〇委員)

四季美谷温泉に関連したようなことばかり申し述べます。

まず、第1回目の会議の時に質問させていただきましたが、195号の雲早トンネルの凍結のための通行止めの件に関しましては、先程も柳本部長さんからお伺いし、柳本部長さん個人で道路をパトロールして回っていただいたということで、今後とも解除に向けた取り組みをお願いします。

シカ被害対策には本当に深刻で、今朝も数頭見てまいりましたが、大変な被害を受けているのが現状です。県議会の方でも、対応策を進めていただいているようですので、これも近いうちに解決するのではないかと考えています。

もう一点ですけれども、林道木屋平木沢線ですが、いつ頃開通するのかお伺いしたい。この林道が開通いたしますと観光の面でも特に必要な林道です。予算も厳しい中ですが、(未改良の)距離はもう短くなっていると思いますので、よろしくをお願いします。

それと私も山が好きで、「地下足袋王子」というニックネームで毎週日曜日にやっており、もう4年と8ヶ月になり、229回で3333名に来ていただいています。毎週山に登っていますと、やはり心配なのは登

山道の整備なんです。看板がほとんどない山が那賀町に多いです。そして、剣山自然休養林等保護管理協議会に県からも180万円、美馬市が18万4千円、三好市も同じ、那賀町、つるぎ町もそうで、それから民間の方からもお金を出して頂いているようです。その会に出席した方に伺いますと、特に那賀町からはパンフレットにもほとんどルートが採用されていない、ということです。作業員も3名いますが、南の方のルートは若干手薄になっているんじゃないかと思えます。できれば、作業員も地元の方にも出ただいて整備をやっていただければ、安心安全な登山ができるんじゃないかと、看板も含めてお願いしたいと思います。

それとこのチラシ(つるぎトレイルランニングレース)ですけれど、5月16日日曜日、成功したいと思えます。関係者のみなさん、ご協力をよろしく願います。

(園農林水産部副部長)

木屋平木沢線の工事の進捗率は90%を越えており、もう後少しというところではあります。引き続き早期完成に向け、職員一同取り組んでいきたいと思えますのでよろしく願います。

(〇〇委員)

私は、「ここに住んでよかったな、生まれてよかったな」をキーワードにずっと活動してきました、子どもたちに徳島の楽しかった思い出を持たせてあげたいなと思えます。

そのひとつは、やはり人形浄瑠璃は欠くことはできないものだと思うんです。外でする農村舞台で行われる人形浄瑠璃はとても人気があるんですが、ホールで行うと、なかなかお客さんが来てくださらない。夢ホールで今年は、スクリーンに字幕を付けて楽しんでいただくことはできました。

それで、高校生たちに見てもらいたいと思えます、県教育委員会からは、県境育委員会から呼びかけて欲しいと依頼したら開催の案内や参加の依頼はできるが、学校全体として参加するかどうかは、学校長の判断によるので、人形浄瑠璃だけを特別扱できないと言われてしまいました。とにかく学校現場は忙しく、そこで遮られてしまい、どうしようかなと思えているところではあります。

それと、7日に阿波銀ホールで行われるガラコンサートで、木管五重奏とピアノトリオのふたつのアンサンブルで、これは1月の末からずっと徳島県内のあちこちで出前授業やコンサートを行ってきた方達の演奏会です。この出前授業を学校でと阿南でもお願いに行ったり、夢ホールでのコンサートでは子どもたちは無料招待だったので子どもたちに知らせてくださいと言ったときも、先生達が忙しかったんです。阿南市内の校長先生にお話しをさせてもらったりしたんですが、なかなか子ども達のところまで情報が届かなかったんです。人形浄瑠璃しかり、せつかくあるコンサートしかり、子どもたちに届けるような形がつかれないのかなと。今ここで語ることではないのかもしれないのですが、先生たちが忙しいというのが、昔のことだったと言えるようになればいいなと思っております。

(〇〇委員)

とくしま経済飛躍ファンドについて述べさせていただきます。何社かの中小企業、農業生産者にファンド内容について聞いたところ、助成対象品目が新商品開発のための試作品のためだけになっており、非常に使いづらいという意見が多く出ました。例えば、機械設備を導入して1年間試作し翌年に商品として販路開拓をしていく時、その機械設備は「試作」ではなく「生産」となり、対象品目では認めてもらえない。それと製造過程でどうしても機械設備にかかるさまざまな費用が大部分を占めます。そこで製造工程でオリジナルの試作機械を作った場合に、その機械を次の生産段階に入った場合、当然流用していきますが、飛躍ファンドではその機械は生産段階では認められないので、同じものを自らの費用で作直さなければいけないので結局、費用が嵩んでいきます。そうすると助成の意味が薄らいできます。

それと、機械設備以外の対象品目についてもいろんな縛りが多すぎ、申請の煩雑さを考えて、新規事業、新商品開発をあきらめてしまう状況になっているということです。認定条件をもう少し緩和していただいて、使い勝手のよい事業にしていいただければありがたいです。

(新産業戦略課 岡田副課長)

経済飛躍ファンドには、LEDバレイ推進枠と地域資源枠、それから農商工連携枠がございます。

ただいま委員からご提言のありました農商工連携推進枠につきましても、このファンドの原資を国(中小企業基盤整備機構)から調達しており、その取扱いについては県単独で決められないという部分もあります。

今回ご提言の件につきましては、今後、中小企業基盤整備機構とも十分検討させていただきたいと思えます。

(〇〇委員)

最初に説明いただいた、このパンフレットから2つ意見を述べさせていただきます。

この1番の「自然環境調和型の産業づくり」のところ、ブランド化の推進や地産地消の促進ということ

で、非常に心強く思っております。最近、阿南市に県や市の助成で新たに大型産直市場ができると聞いていますが、もしできるとなったら生産者と消費者のメリットがうまくかみ合わないという大型のものは成功しないと思うのです。海の幸、山の幸がセットではじめて県南の魅力だと思うので、その商品の中に海の幸も入れていただき、さらに加工までしてくれたらいいと思います。また、赤石にあいさい広場や那賀町に道の駅もすでにできているので、開設をされる場所とか規模が大きく左右されると思うので、将来を見据えた検討とか協議をお願いしたいと思います。また、運営をするリーダー、業務責任者が一番成功の鍵を握ると思うので、人材育成とかにも補助していただけたらいい市場ができるんじゃないかと思っておりますのでお願いします。

それと、高速交通体系のところ、阿南小松島線の楠根トンネルはいつ開通できるのでしょうか教えてください。また、トンネルを抜けた途中が非常に狭く、朝夕の驚敷工場に行く人がたくさんあり、交通渋滞が田舎でも起こります。さらに、太龍寺の裏側の加茂から阿瀬比に抜けるところに、もう10年も前から大きな大きな橋桁が2つ、もう上だけつけてくれたらこのトンネルも繋がり、櫛淵バイパスも立派なのがあるので、日亜化学の渋滞にも大塚の人が勝浦帰るのも重ならないと思います。

もっと希望があります、命の道、経済の道ということで、高速道路が小松島から日亜化学のところまでできるのに、櫛淵にインターチェンジがつくと、勝浦の人も、那賀川、羽ノ浦の人も非常に経済も発展します。日赤に行くのにも、櫛淵にインターチェンジがあったら命の道としていいかと思うので、ご検討くださいようお願いします。

(柳本県土整備部長)

まず、楠根トンネルは掘削については終わっており、コンクリートの巻きたてを随時している状況で、できるだけ1日でも早くということですが、なんとか9月ぐらいを目途にがんばっております。

それから、その手前の金石持井工区は、楠根側は法面のアンカーとか打っておりましたが、その後、用地が非常に難しくなり、現在、休止状態になっております。それで楠根工区が完成後、そちらの方に着手すべく、今、問題を把握しており、楠根が終わって即、用地買収に取りかけられるように準備している状況です。

それから奥の方、醍醐(だいご)とおもいますが、非常にクネクネと曲がっているところで、そこに橋を架けるのが一番いいということで、そのピアの所だけはとりあえず用地が買えたのですが、休止になっております。今は重点化ということで、予算も非常に厳しくなっており、一番効果があるところを随時やらせていただいております。金石の次にはそこへ行くかも分かりませんが、重点化ということでさせていただきます。

それと、櫛淵のインターということで地元からもご要望があるようでございますが、このあたりは私が答えることができませんけど、私自身もそこにあれば非常に便利になるなどは思っております。

(〇〇委員)

お伝えください、よろしく申し上げます。

(園農林水産部副部長)

地産地消の件ですが、協力店舗数、かいふサポーターとかは南の関係の目標で直売所は、阿南管内13箇所、美波管内9箇所、計22箇所、そのうち常設の分が9箇所、あと定期的に土日が、13箇所です。先程の直売所が新たにできるというお話しは、具体的な計画につきまして私の方で把握しておりません。以前から直売所のお話しがあるということは聞いておりますが、今ここではご容赦いただきたいと思っております。ご存じのように那賀川町でしたら「とれとれ市」が、小松島は「あいさい広場」ということで、非常に成功した例があります。地域で生産された物を地域の方に消費していただくという点では、非常に有効な施設だと考えており、そういう情報を大事にしていきたいと思っております。

また、地元でどんな物が採れるか、どんな使い方ができるかとか、作る側と売っていただく方と情報交換し、いろいろとレシピを作ったり、取り組んできたいと考えております。

(〇〇委員)

私は、クラブノアというグループの代表をやっており、漁村を中心とした地域の活性化事業を国内で5箇所、海外でも1箇所やっています。それ以外にもテレビの番組を作ったりしています。徳島では、牟岐でダイビングと小さな水族館をやっています。

実は、子どもが大学の卒業旅行で四国を回ったそうです。ところが一箇所だけ、海部郡だけ回ってないんです。私が、海部郡で仕事していてなんで?ときくと、「情報がないから」と、それから室戸でUターンをして、祖谷の方、それから鳴門の渦潮を見て帰ってきたと言うことなんです。ということは、県南の情報、魅力が一般のマーケットに伝わっていない、これが非常にネックになっている。

先程のパンフレットの「だれも知らない四国の右下」ということをみんなが知ってなければいけないと、これが大事だと思う。県南には、すばらしい海、すばらしい景色を持っています。全国的に見てもこの景色はものすごくいいです。それから、大島、宍喰にもすばらしいサンゴがあります。それから由岐の方でも、

昔の薩摩藩の軍艦が沈んでいる、そういったものがどう紹介されてるか。それから蒲生田岬、あそこへ行く海岸線がきれいです。

こういったものをなんとか紹介できないかなと。それで私、国内でダイビングを5箇所と小さな水族館が2箇所とそれ以上にもっと大きいのは移動水族館で、年に5、6回、この近くでは岡山県の天満屋さん、高松の天満屋さん、松山の高島屋さんで、今年のゴールデンウィークは岡山のコンベンションセンターで、2、3週間で9万人から10万人を集めます。今年5箇所やりますが徳島ではやってない。

徳島の市内ですと、場所、タイミングを選ぶことによって10万人から20万人の客を呼べるエリアだと思います。ただし、場所、運営の形態、それから収支が合うかどうか規模によります。ここで徳島の海の情報発信ができないか、海の情報だけではなく観光の発信です。その発信基地から各地域にいろんな注文ができないか。例えば穴喰でいろんな人にサンゴを見てもらったり。これから例えば中国の上海、台湾などから海外の観光客がどんどん増えてくると思います。こういう人にとってサンゴの海は大変あこがれなわけです。それからこの前ニュースでやっていた医療も受けられる、そういうプラスがたくさんあると、県内、国内だけではなく海外までも視野に入れたマーケットで売っていけないか。その第一歩が情報発信の基地を作ることだと思うんです。ただ水族館で情報発信、観光客を迎えるだけではなく、県南の海の産物を販売できないかと。

和歌山のとれとれ市場はロケーションが非常によく、観光客が来るところに駐車場が大きく、北海道のイカやカニを売ってる。でも四国の場合には本物がたくさんあり、売るものには不自由しない。今、牟岐では漁師さんが売り物にならない魚を見せています。岡山県では、定置網で獲れたマンボウを飼育して、水族館で見せ、その後は上海の水族館に販売するといったようないろんな展開ができると思います。ぜひ情報発信を、水族館で徳島にはサンゴも含めすばらしい海がと紹介をしたい。東京から大阪から、徳島の海に行くという体制が今はまだできてない。四国に行くと足摺岬とか向こうで、鳴門の渦潮がまんしてしまふ。道もよくなり、高速料金も安くなったので、もう一步県南の海に行こうと、この対外的情報発信の基地ができれば、つくらせていただければ、収支は出せますので、行政にぶらさがらんじゃなくて、その中で地元投資をしていきたい。県南の例えば、サンゴの水中ステーション、ジンベイザメ、イルカの飼育、カメとみんなを泳がすといったことは簡単にできます。あとは地元の協力に対する啓蒙活動、地元のやる気。子どもたちに徳島の海を知ってもらうための教育。教育をできるような基地としての水族館的なもののベースを是非作っていただきたい。その代わりに運営は自分たちで責任を持ってやりたい。5年も6年も10年も行政にぶら下がってお金出してくれというのでは情けない。初年度から自分たちで自立していくと。こういうことができると思うので是非ご協力を考えていただきたい。

(知事)

先程予算の話をしたんですが、徳島だけではなく国も地方も財政が厳しい。しかし逆にそういう時だからこそ先程のPRをするには絶好のチャンスではないか、新しいこれぞというものは、実証実験とかモデル事業でどんどん対応していこうと。例えば先ほどトンネルが暗いというお話がありましたが、これにはLED式のトンネル照明にしまえば、切れないし非常にコストも安くすむというような実証実験をどんどんやっっていこうと考えております。

今、〇〇委員からお話のありました移動水族館の適地として、例えば市内であれば、今回公募をしようとしている実証実験がひとつありまして、新町川沿いの県庁からずっと下の方へ行った倉庫群があり、万代埠頭ですが、これが昔からの課題だったんです。ここを例えば、小樽運河はそういうのを活用し北一硝子のガラス工場を持ってきたりして昔の町並みを復元した。ここも平成22年度の予算が通れば、その公募をしてこの倉庫群の中に、例えばギャラリー、飲食あるいは商業施設、こうしたものにして「にぎわいの空間」にしていく。そうした中に例えば移動水族館があると、ちょうど海がすぐですので、一大にぎわいの拠点になるだろうと。ご紹介を頂きました、これからのモデルになる医療と観光を合わせた医療観光、これは日本が一番遅れているという中で、徳島の場合、リーディングケースとしてどんどん全国で紹介され、いよいよ20日には中国からチャーター便が来るわけで、こうした中で大きな目玉がどんどん必要になるのではないかと。そして徳島市内にそうした移動水族館を含める新しいギャラリーができあがるということになると、まさに県南地域のアンテナショップになります。移動水族館にもたくさん来るんですが、この魚たちが泳いでいる、スキューバダイビング、サーフィンもできる県南に行きましょと。そうしたものは一石二鳥、三鳥四鳥になると思いますので、ぜひそういったものとコラボレーションして、一緒に組み込んでご協力いただければ大きな目玉になるので、是非とも一緒にお願いしたいと思います。

(〇〇委員)

この会に参加していろんな事業が行われているということにたいへんびっくりしています。住民自身がこういう事業を全然、多分ほとんどの人が分かっていないというのが、非常に残念だなと思っています。それで、このような事業のことをもっと住民が知る機会があればいいなと思います。

それと、この体験型観光で、地元の人が地元のことをよく知らないと思うんです。地元の良さは地元の

人が情報を発信して行くようにしないと良さが伝わらないと思うので、地元の良さをもっと分かるような、地元で遊ぶっていう感覚をもっと取り入れるようにできたらいいのではないかと思います。

(上野局長)

それでは次に圏域の振興に取り組んで頂いております市長さん、町長さんからご意見ございましたらお伺いしたいと思います。まず、海陽町長さんから。

(海陽町長)

去る2月の24日に、全国の水産振興の会があり、それぞれの県の代表者の方はクラゲとか燃料が高い、不漁、安いとかいう話であった訳です。昨年の2月22日、知事さんに出席していただいたその朝、ブリが6000匹入りました。だから今年の2月21日は、20匹入りました。その時に、必ずこの1週間に入ると思っていると25日に600匹入りました、そして次にチリ地震津波で、海はやられてしまい残念ながら収まるまで待たざるを得ない。この3月14日は防災センターが落成竣工ということで、本町においては、防災に対する司令塔ができると非常に喜んでおります。

そこで、資料(リーフレット)には、公共交通でバスはそれぞれ町村にあり、鉄道は阿佐東線に1箇所しかないの、1行ではなく3行くらい、少々具体的にも入れて書いて頂きたい。

それと八十八箇所の遍路さんで、確かに遍路文化というものが生まれつつあると思っております。遍路小屋は、市町村に対して土地を提供すれば、後は全てある方が建てられております。うちにも2、3カ所あり、歩いている方々の心の支えだと思っております。それで、札所側の所の事ばかりではなく、接遇についてもそれぞれの地域にあると思っておりますので、1行くらいは増やして頂きたい。

それと、ここに耐震化と書かれていることは非常に良いのですが、やはり耐震化してそこが、それぞれの町村の避難場所になると、それも書いて頂きたい。高等学校だから避難場所じゃないと、そういう住民の方もおるのではないのかとも思っておりますので、折角、耐震化されて十二分に耐えるとなった場合には、避難場所になっておりますよというのをお願いしたい。

これは海部高校は、旧海南高校から12年目になりますが、高校に対して地元町村から援助、補助金を出しているのは、うちの高校だけです。それで文武両道でと、文の方では、ひとつにサテライト、衛星放送で東京の予備校が生に映りますが、12年前には分かるものが受けた生徒の半分以下だったので、それだけレベルの差がありました。しかし今年、100パーセントわかるようになった説明を受けました。これは価値があります。まさに継続は力です。だから、徳島市内の優秀な高校も、田舎の海部高校もなんら変わらない。

もう一つ、「四国の右の下」ではなく、これを「四国の太平洋」とかそういう題にしてもらえないでしょうか。下より上の方が良いですから。

(美波町長)

美波町は昨年の1月に大きなお年玉を頂きました。それはNHKの「ウェルかめ」で、1月8日が制作発表ということで、5月25日からロケが始まり、なかなか町として準備も出来ていないところ、県さんのほうに色々とお手伝いご支援をして頂きました。9月28日から「ウェルかめ」が始まり、この3月27日で終わります。うみがめ博物館の入場者数が、10月には前年度の3.5倍、11月も3.5倍、12月には5倍を超えました。今年はそのお年玉を上手に使っていく年だなということもあり、平成22年度は町としても観光交流のウェルかめ事業として、できるだけこの効果を持続できるようにというような予算を組んでおります。

このウェルかめが始まり、新しく出来た「うみがめマリンクルーズ」、「観光のボランティアガイド」、また道の駅での「にぎわいステージ」など、これらをこれからも続けていきたいと思っております。

このNHKという情報発信は、すごい大きなものがございまして、この徳島県が、日本全国で大きく認知されたんだろうと思います。また、この後、高知それから愛媛で同じようにNHKのドラマが作られており、四国四県や徳島の認知度を今後とも広め、知って頂くということで、この県南をひとつのエリアとして、お客さんが来てくれるような策、色んなご支援を今後ともお願いしたいと思います。

(牟岐町長)

牟岐から県庁まで68キロ、2時間もつとかかります。道路を早く付けていただきたいというのは、この半時間、1時間が本当に貴重な時間です。知事さんはじめ、県の方もご努力頂いているようですが、1時間コースに早くなればと、四国の4知事の会でも阿南安芸道路で私も毎年出席しておりますが、今後とも国に働きかけとかお願いしたいと思います。

それと、よくばり体験は3町でやっておりますが、県南の素晴らしい体験型観光で、21年度は11校で1,322名で、中学校は5、小学校は4、支援学級が2。22年度の予約は、12校で1,842名となり、23年度は12校で2,500名というようになっていきます。体験型学習は文科省の補助も出るようになっております。特によくばり体験の全国大会が、来年度は徳島で行われますので、修学旅行とリンクした体験型観

光は、情報発信の大きな方法としてチャンスだと思います。海部3町が、地引き網体験、鯉のたたき体験と民泊もあり、これからも更に膨らませていければと思っております。

なお、先程の四国8の字ルートで、牟岐バイパスは、事業仕分けでこのまま行くのでしょうか。もう地権者交渉もあるようですが。

それと、県立海部病院の充実、地域医療の中核として、特に医師1名が今年は増員になりました。色々大変なところですが、地元でお産ができる、また小児科の復活は夢でございますので、また県のほうでも色々ご努力いただいておりますけれども、よろしく願いいたします。

なお牟岐には、千年サンゴというハマサンゴの北半球一もありますので、これをコアにした観光を色々できたらと思います。よろしく願いいたします。

(那賀町長)

那賀町の取り組みバイオマスタウン事業は、先般、新聞報道もされましたが、BTL・バイオ液体燃料のプラントの試験運転を行い日本では初めて実際に軽油が木材から採れ、実際に使えるか先般行ったところです。その結果、BTLの精製には成功しました。今は、軽油が実際に使えるか品質等も含めて、試験しているところです。町として、トラック、耕耘機それからトラクターに一応使ってみたところ支障はなかったということです。それから機械の常時運転についても可能ということで、今その内容分析等を行っているところです。これは経産省の事業で、一応分析終わるまで、運転はちょっと休むのですが、4月以降から、四電エンジニアリング、また違ったメーカー、それから企業も参画したいという申し出が来ており、今後なお一層、大量生産等も含めて可能かどうか実用試験を行って参りたいと思っております。

それとあわせて相分離のプラントは、22年度予算で満額ついており、現在はその提案の審査を行って頂いているところで、6月か7月ぐらいまでにはかかれるのでは思っています。

三重大学との共同研究の費用については現在、三重大学とともに契約をしていただいております企業が全て持つということで進めております。22年度中には、このBTLの液体燃料のプラントと、相分離のこれバイオプラスチック関係が主になるんですが、そのプラントを運転をしたいと思っております。ただやはり、これ全て両方とも初めてのことであり、これが本当に大量生産、商業ベースに乗るという事業になるまでには、3、4年かかると思っております。

それから先程お話しができましたように、それまでに那賀町としてやはり、木材、森林の活性化、それにあわせて雇用の拡大ということが最終目標でありますので、やはり原料の安定供給とそれに対する人材の育成、後継者育成、これらのシステムをどうすればよいか2、3年の内に調査、ソフト的なものについて地盤を固めていきたいと思っております。確かに、高性能機械にも色々な課題があり、1カ所で高性能機械が使えても、その範囲の地権者が何人かに分かれており、こうした人のご理解を頂くために、小規模林家の方にも参画していただけるように、千円でも2千円でも間伐でお金が落ちるという制度を作っていないとやはり、木を出して頂けないし、間伐は推進されません。そういったシステムづくりに、早急な対応をお願いして参りたいと思っております。それにあわせて先程申し上げましたBTLプラント、そして相分離のプラントについては、あわせて進めて参りたいと思っております。

それから〇〇委員からお話しがありました剣山の案内板の件ですが、去年、北山たけしさんの剣山のチャリティコンサートで30数万円、コンサートで集まり、全て寄付を頂き、剣山の自然休養林の協議会、これは町村会の兼西つるぎ町長さんが会長をされている協議会と、それから美馬市の牧田市長さんが会長されている協議会で施設整備を行っているということで、先般、その30万円を移し替えをさせて頂きましたので、その施設整備の中で案内版等についても、お願いし、そちらの方で対応させて頂きたいと思っております。

(上野局長)

どうも皆さん有り難うございました。それでは意見交換会を終わる前に、警察のほうからお願いがございます。

(郡牟岐警察署長)

※警察による説明

(上野局長)

これで本日の日程を終了させていただきます。本日は委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席頂き、また活発なご意見を賜りまして大変ありがとうございました。本日頂きましたご意見を参考にさせていただきまして、今後の施策を推進して参りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。どうも本日は有り難うございました。